

令和5年度 活動実績

団体名	四国運輸局観光部観光企画課
-----	---------------

① D X を活用した四国遍路の受入環境整備

【目的】

新型コロナウイルスによる水際対策が終了し、歩き巡礼体験者、トレイル愛好家等四国遍路を目的とした訪日外国人旅行者が増え始めている。コロナ禍による約3年の空白期間により、宿泊・飲食施設の閉鎖、ボランティア人材の減少等、サービス提供体制が後退したこともあり、以前にも増して、きめ細やかな情報提供やサポートを求める声が大きくなっている。

令和5年度事業では各札所における多言語案内表示などの受入環境体制を整備すると同時に、独自のQR情報システムを活用した位置情報の取得等による動態分析など、DXを活用した情報整備のあり方やその効果等について調査を実施した。

【事業概要】

独自のQR情報システムを構築（開発）することで、QRコードを活用した受入環境体制を継続的に整備すると同時に、位置情報やMacアドレス等の端末特定情報などのデータ取得が可能となり、動態分析をはじめDXを活用した情報整備のあり方やその効果検証方法等について調査を実施した。

(令和5年度) 事業概要

- (1)独自のQR情報システムを構築(開発)
check-in,check-out機能を備える
- (2)QRコードの設置(前事業で掲示したQRコードの張替え)
- (3)前年度事業で構築した情報センターとの連携
- (4)旅マエ情報の発信(メルマガ等)

事前準備



- (1)旅ナカサポート(外国人モニター以外を含めるか要検討)
荷物搬送・自転車貸出・照会対応
- (2)外国人モニターによる調査
- (3)QRシステムによる情報の取得

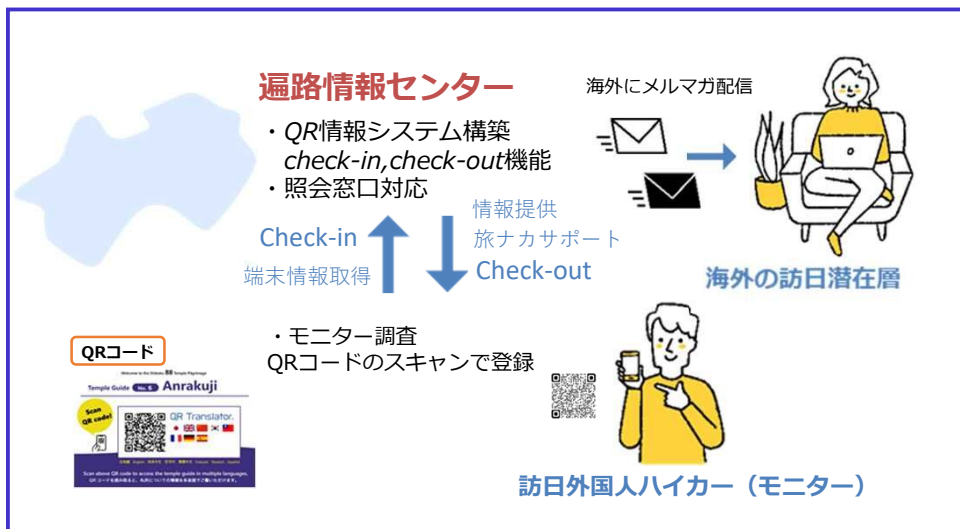
調査開始



- (1)外国人モニター調査結果分析
- (2)QRシステムで取得した情報分析(可視化方法等)
- (3)専門家・有識者を交えた事業評価、方向性の検討

効果検証

全体イメージ



効果検証

【実績】

QRコード設置箇所

（札所）86寺・106ヶ所

（宿泊施設・観光案内所等）53ヶ所

8言語で情報提供（日・英・繁体・簡体・韓・仏・独・西）



②四国遍路シンポジウムの開催

①の成果を関係者が共有し連携して四国遍路の受入環境整備を進める機運を醸成するために、四国各地遍路道沿道に位置する自治体をはじめ、各地のDMO、観光案内所、観光関連事業者、ボランティア等地域住民を対象としたシンポジウムを開催した。

シンポジウムの概要

会議名：四国遍路シンポジウム

～四国遍路の受入環境整備を考える～

日時：2024年2月13日

場所：かがわ国際会議場（高松シンボルタワー6階）

来場者：230名

プログラム

第1部：事業報告「DXを活用した四国遍路の受入環境整備に向けた調査事業」について

第2部：基調講演「世界遺産高野山における文化観光地域づくりについて」

第3部：パネルディスカッション「四国遍路の受入環境整備について考える」

討論内容・意見感想（抜粋）について

- 外国人遍路に対応するため、受入環境整備は喫緊の課題。
- ワンストップサポートや情報一元化を行う組織が重要。
- 宿泊施設不足も外国人遍路の受入にとって課題。外国人がストレスなく宿を探すことが出来る仕組みの構築が必要。宿側も外国人とコミュニケーションが取れた上で適切な収益を上げられる運営にしていく必要がある。